

取組事例の名称		浅海域および閉鎖水域の深浅測量
概要	対象	深浅測量
	種別	<input type="checkbox"/> 救援 <input type="checkbox"/> 機能回復 <input type="checkbox"/> 新・増設 <input type="checkbox"/> 復興 <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( )
	規模	測線総延長 : 53.5 km
	実施会社	東亜建設工業 (株)
	実施場所	福島 県 市
	発注者	

## 1. 工事等取組の目的及び概要と採用した技術名称

名称：自律航行型ラジコンボートを用いた深浅測量

深浅測量を行う際に通常使われる船では水中の瓦礫や喫水の問題から座礁する恐れがあり航行できない水域や閉鎖水域において使用した。

自律航行型ラジコンボートは、D-GPSと音響測深機を内蔵した小型ボートで、あらかじめ決めた測線やポイントを自律航行しながら測量が行える。重量が13kgであり1人で運搬可能であり、喫水が15cmであるため通常の船が大掛かりな段取りでしか搬入できない水域や非常に浅い水域での測量に適している。

## 2. 当該技術を採用した理由、当該技術に期待した成果

- ・ 通常の測量船では喫水の問題から瓦礫等に当たったり座礁したりする恐れがあった。
- ・ 閉鎖水域で測量を行う場合、測量船の搬入にクレーンを用いる必要があり大掛かりとなる。
- ・ 自律航行型ラジコンボートを用いることにより少人数でクレーン等を用いることなく測量を行うことができる。

(写真、イラスト)



取組事例の名称	浅海域および閉鎖水域の深浅測量
<p>3. 工事等の実施に当たっての課題や留意した事項、苦労した事柄・教訓</p> <p>ラジコンボートの制御は無線LANを用いて行っており、無線LANの通信が途切れた場合、電源投入位置に戻る機能(自動帰還)があるため消波ブロックの近くで途切れた場合にブロック内に挟まれることがあった。</p>	
<p>4. 実施後の成果に対する発注者や地元住民等の評価</p> <p>現場での対応(少人数でかつクレーン等大掛かりな段取りを必要としない点)および成果に対しては発注者には満足いただけたとと思う。</p>	
<p>5. 採用した技術に対する改善点、望まれる技術</p> <p>無線LANが途切れた場合、自動帰還せずにその場に留まって欲しい。 測線や測量ポイント登録の更なる簡便化。</p>	
<p>6. 今回の取組を通じ、将来の災害対応の為に準備すべきと感じた事項</p> <p>災害時に深浅測量など現状確認は必須である。今回は単素子による”線”の測量であったが、ナローマルチビーム測深ソナーによる”面”の測量も勘弁に(小人数で)できる装置があれば更に役立つと感じた。</p>	
NETIS登録	